

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	硫酸銅(II)・五水和物 (Copper(II) sulfate pentahydrate)
会社名	全国農業協同組合連合会
担当部署	肥料農薬部
住所	〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル33F
電話番号	03-6271-8285
FAX番号	03-5218-2536
メールアドレス	zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急時の電話番号	03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

2. 危険有害性の要約

GHS分類 GHS分類ガイドンス(令和元年度改訂版(Ver.2.0))を使用
JIS Z7252:2019準拠 (GHS改訂6版を使用)

物理化学的危険性	火薬類	分類できない
	可燃性・引火性ガス	分類できない
	可燃性・引火性エアゾール	分類できない
	支燃性・酸化性ガス類	分類できない
	高压ガス	分類できない
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
	健康に対する有害性	急性毒性(経口)
急性毒性(経皮)		分類できない
急性毒性(吸入:ガス)		分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)		分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)		分類できない

	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1(呼吸器 腎臓 神経系 肝臓 血液系)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(腎臓 呼吸器 血液系)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分2(肝臓)
環境に対する有害性	吸引力呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分1
	水生環境慢性有害性	区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

飲み込むと有害

皮膚刺激

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれの疑い

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

肝臓、血液系、呼吸器、神経系、腎臓の障害

長期又は反復ばく露による血液系、呼吸器、腎臓の障害

長期又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

適切な保護手袋を着用すること。

適切な保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

適切な個人用保護具を使用すること。

環境への放出を避けること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

粉じん、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、

医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
 取り扱った後、手を洗うこと。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
 漏出物は回収すること。
【保管】
 施錠して保管すること。
【廃棄】
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質

化学名又は一般名	硫酸第二銅五水和物
別名	
分子式 (分子量)	CuSO ₄ ·5H ₂ O (249.68)
化学特性 (示性式又は構造式)	
CAS番号:	7758-99-8
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	(1)-300
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし
濃度又は濃度範囲	100%

4. 応急措置

吸入した場合
 皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
 水と石鹼で洗うこと。
 汚染された衣類を脱ぐこと。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤
 使ってはならない消火剤
 特有の危険有害性
 特有の消火方法

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
 棒状注水

消火を行う者の保護

消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

<p>6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置</p>	<p>作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 密閉された場所に立入る前に換気する。 全ての着火源を取り除く。 近傍での喫煙、火花や火炎の禁止。 環境中に放出してはならない。 する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。回収した漏洩物 は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。後処理として、漏 洩場所は消石灰などのアルカリ溶液で中和し、多量の水で洗い流 す。 危険でなければ漏れを止める。 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
<p>環境に対する注意事項 回収・中和</p>	
<p>封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策</p>	
<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p>	
<p>取扱い 技術的対策 局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項</p>	<p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保 護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気 を行う。 使用前に使用説明書入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 眼、皮膚との接触を避けること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 取り扱い後は手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 データなし データなし 施錠して保管すること。 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。 データなし</p>
<p>保管 技術的対策 混触危険物質 保管条件 容器包装材料</p>	
<p>8. ばく露防止及び保護措置 管理濃度 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく 露指標)</p>	<p>未設定</p>
<p>日本産衛学会 (2007年版) ACGIH (2007年版)</p>	<p>未設定 TLV-TWA 1mg/m³(銅粉塵)</p>
<p>設備対策</p>	<p>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャ ワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を 設置すること。</p>
<p>保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着 用する。 長袖作業衣を着用する。必要に応じて保護面、保護長靴を着用す る。</p>
<p>衛生対策</p>	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理的状 形状	固体
色	データなし
臭い	データなし
pH	データなし
融点・凝固点	>110°C: NITE (Access on Oct.2008)
沸点、初留点及び沸騰範囲	>150°C: NITE (Access on Oct.2008)
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性 (固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	2.57E-015 mm Hg at 25°C: PhysProp (Access on Oct.2008)
蒸気密度	データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル = 1)	データなし
比重 (密度)	2.286: NITE (Access on Oct.2008)
溶解度	32g/L at 20°C: NITE (Access on Oct.2008)
オクタノール・水分配係数	-0.17: PhysProp (Access on Oct.2008)
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	化学的危険性:加熱すると分解し、有毒で腐食性のあるヒューム(イオウ酸化物など)を生じる。水溶液は弱酸性で、水の存在下で多くの金属を侵す。
避けるべき条件	日光、高熱、乾燥空気
混触危険物質	酸化剤、マグネシウム、鉄、ヒドロキシルアミン、次亜臭素酸ナトリウム
危険有害な分解生成物	熱分解又は燃焼したとき、有害な亜硫酸ガス、硫黄酸化物、酸化銅(II)のヒュームが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 経口	ラットを用いた経口投与試験のLD50=960 mg/kg (EHC 200 (1998))に基づき、区分4とした。
経皮	ラットを用いた経皮投与試験のLD50>2,000 mg/kg (RTECS (2006))に基づき、区分に該当しないまたは区分5と考えられるが、特定しうるデータがないため、分類できないともできる。本報告が2,000が上限であるOECDガイドラインに則ったものであれば、今後これ以上の用量で試験が行われることもないため、「ヒト健康に対する急性的な懸念が示唆される場合」以外は、「区分に該当しない」でよいとも考えられるが、本報告は数値のみであり、詳細が不明、またPriority2のデータであるため、データ不足のため「分類できない」とした。
吸入	吸入(ガス): GHSの定義による固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類できないとした。 吸入(蒸気): データなし 吸入(粉じん): データなし
皮膚腐食性・刺激性	ICSC (2001) のヒト疫学事例の記述に「発赤、痛み」とあることから、刺激の程度は不明であるが皮膚刺激性を有するものと判断し、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ICSC (2001) のヒト疫学事例の記述に「痛み、発赤、視界のかすみ」とあることから、刺激の程度は不明だが、刺激性を有するものと考え、区分2A-2Bとした。細区分の必要がある場合は、安全性の観点から、2Aとした方が望ましい。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:日本産業衛生学会で、銅またはその化合物として「第2群」に分類されており、また、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会(2004)では銅を皮膚感作性化学物質として分類していることから、区分1

生殖細胞変異原性

NTP DB (Access on July, 2006)、ATSDR (2004)、EHC 200 (1998)の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験)で陽性、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なしであることから、区分2とした。

発がん性

毒性情報はあがるが既存分類がないため、専門家の判断に従い、分類できないとした。

生殖毒性

ATSDR (2004)、EHC 200 (1998)、CERIハザードデータ集 2001-59 (2002)の記述から、親動物での一般毒性に関する記述はないが、児動物に奇形及び生後発達への影響がみられることから、区分2とした。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

ヒトについては、「嘔吐、し眠、急性溶血性貧血、腎臓および肝臓傷害、神経毒性、血圧上昇、呼吸数増加等の症状が見られる」(EHC 200 (1998))、「中枢神経系の抑制と、肝不全および腎不全によるものであろう死亡例が報告されている」、「尿細管傷害が観察された」(ATSDR (2004))等の記述、実験動物では「急性の炎症性変化が肺に見られた」(EHC 200 (1998))、との記述があることから、血液系、肝臓、神経系、腎臓、呼吸器を標的臓器とすると考えられた。なお、実験動物に対する影響は区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(血液系、肝臓、神経系、腎臓、呼吸器)とした。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ヒトについては、「溶血性貧血が見られた」、「病理上の変化としては肺の炎症、肉芽形成、フィブロヒアリン小結節、マクロファージの脱落、進行性のびまん性線維化があげられる」(ATSDR (2004))等の記述、実験動物については、「近位尿管上皮細胞に蛋白滴が見られた」、「腎臓では細胞質内蛋白滴が明らかで、また小球性貧血に示唆される血液学的変化が観察された」(EHC 200 (1998))、「肝障害の初期反応として、血清生化学的酵素、特にアラントランスアミナーゼの上昇が見られた」(ATSDR (2004))等の記述がある。またICSC (J) (2001)には「反復または長期のエアロゾルへのばく露により、肺が冒されることがある」との記載があることから、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓が区分1に、肝臓が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(血液系、腎臓、呼吸器)、区分2(肝臓)とした。

吸引性呼吸器有害性

データなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性

甲殻類(ネコゼミジンコ属)の48時間LC50=0.00272mg/L (ECETOC TR91, 2003)から、区分1とした。

水生環境慢性有害性

急性毒性が区分1、金属化合物であり水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない
	UNNo.	該当しない
国内規制	陸上規制情報	指定なし
	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない
特別安全対策		データなし

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号:379)
毒物及び劇物取締法	劇物(指定令第2条)無機銅塩類(政令番号:72)
海洋汚染防止法	個品運送PP(施行規則第30条の2の3、国土交通省告示)
化学物質排出把握管理促進法(P R T R 法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)(政令番号:1-207)
下水道法	水質基準物質(法第12条の2第2項、施行令第9条の4)
消防法	「届出を要する物質200kg(消防活動阻害物質政令第1条の10)
船空法	その他の有害物質
大気汚染防止法	害大気汚染物質(中環審第9次答申の128)
水質汚濁防止法	「銅及びその化合物」 ①生活環境項目(施行令第三条の第一項) 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下 「銅含有量」 〔排水基準〕3mg/L 以下 (注)排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合は、それに従うこと。 ②指定物質(施行令第三条の三) 「銅及びその化合物」

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

[注意] 本SDSはJIS Z 7253:2019、JIS Z 7252:2019 に準拠して作成しています。

本SDSは、下記全農グリーンリソース株式会社の情報を元に作成しました。
該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名 : 全農グリーンリソース株式会社
住所 : 東京都千代田区神田小川町一丁目10番地
電話 : 03-5209-1217
FAX : 03-3255-1127
緊急連絡先電話番号 : 03-5209-1211